

塩野義製薬株式会社御中

## 「Mother to Mother プロジェクト」第2年次 月次報告③

対象期間：2017年2月1日～2017年3月31日

### 1. 支援事業概要

事業名：	Mother to Mother Shionogi Project
事業地：	ケニア共和国 ナロク県 オスプロ郡 イラマタク地域開発プログラム事業地内
事業期間：	2016年10月～2017年9月（事業2年目）
対象人口：	14,612人（うち5歳未満児2,440人と出産年齢の女性3,507人を含む）
年間予算：	2,000万円（啓発教育費及び地域開発援助事業管理費等18%を含む）
活動目的：	ナロク県オスプロ郡の保健医療施設レベルの強化、母子保健サービスの向上、及び住民への啓発と意識・行動変容を通して、対象地域の子どもと妊産婦の健康状態の改善を目指します。

### 2. 進捗報告

第2年次に予定している9つの活動のうち、対象期間に実施した活動についてご報告いたします。

#### 活動① 診療所の建設

前回の報告書にて、診療所に貯水タンク1基（50m<sup>3</sup>）を設置した旨ご報告しました。本タンクは雨水を溜めて使用する予定でしたが、数カ月間降雨がない状況が続いているため、近くの川の水をポンプで汲み上げてタンクに溜め、塩素処理を施して使用をしています。

2年次に建設予定の台所、スタッフ宿舎、産科棟については、建設業者及び見積額が決定しました。これから工事を開始し、8月を目途に完了する見込みです。



#### 活動② コミュニティ・レベルでのアドボカシー活動

アドボカシー・グループは、昨年から継続的に活動を実施しています。診療所の医薬品供給や保健サービス提供などの政府が担う業務について地域住民に理解を促し、また住民自身が子どもの予防接種、妊産婦の4回の産前健診、保健施設で技術者による安全な出産などの保健サービスを受ける重要性について理解するよう啓発活動を行い、コミュニティ全体で母子保健の理解と行動が身に付くように活動を実施しています。

### 活動③ 巡回診療

保健省や村落保健員（CHV：Community Health Volunteer）<sup>1</sup>と協力し、巡回診療を毎月1回行いました。保健省は主に薬剤や予防接種の準備を行い、村落保健員とアドボカシー・グループは巡回診療に住民が集まるように働きかけたり、授乳婦・妊産婦や5歳未満児の診療後のフォローアップを行ったりしています。3回の巡回診療で、5歳未満児252人（男子134人、女子118人）が予防接種を受け、そのうち58人（男子25人、女子33人）が予防接種を完遂することができました（BCG、経口ポリオワクチン、三種混合、肺炎球菌ワクチン、ロタウイルスワクチン、麻疹・風疹ワクチン）。決められた予防接種を全て受けていない子ども20人に対しても予防接種を実施し、親・保護者に対して予防接種を全て受けることの重要性について教育活動を行いました。また、ビタミンAや駆虫薬の配布も行いました。今回の対象期間も雨が降らずに乾燥した気候が続き、また強風のために砂埃が多い状況が続いたため、皮膚や目の感染、上気道感染が多く見られました。



皮膚の感染が見つかり、エランガタ・エンテリット診療所で治療を受ける子ども

本報告期間も、巡回診療や診療所にて、母親や妊産婦に対して母子保健に関する啓発活動を行い、産前健診の受診や診療所での安全な出産により、合併症のリスクが下がり母子の安全が守られることを伝えてきました。この期間には診療所で5人の赤ちゃんが産まれました。これまでと同様、衛生指導や子どもの成長モニタリング、完全母乳育児、離乳食の内容についても教育を行っています。



エランガタ・エンテリット診療所で、栄養士が母親を対象に完全母乳育児の重要性について話している様子。

<sup>1</sup> 2年次の事業申請書ではCHW（Community Health Worker）と記載していますが、現在はCHV（Community Health Volunteer）と呼び方が変更になっているため、今後はCHVと表記させていただきます。役割・任務は同じです。

本事業での保健省への働きかけにより、エランガタ・エンテリット診療所に週 1 回栄養士が来て、乳幼児や妊産婦の栄養状態の診察や栄養指導を実施しています。母親には、HIV 陽性の場合や栄養不良時の対応なども含めて栄養教育を行っています。

対象期間中、101 人の妊産婦と 158 人の授乳婦が産前健診、HIV 検査、尿検査、血液検査、VDRL（梅毒）検査、葉酸や破傷風トキソイドの投与などの母子保健サービスを受けました。73 人の妊産婦が HIV 検査を受け、17 人が 4 回の産前健診を受診することができました。今後も継続的に母子保健サービスへのアクセス拡大を目指して、政府とも協力してアプローチしていきます。

#### **活動④ 保健サービス管理能力強化研修**

エランガタ・エンテリットに隣接する地域のエンクトト診療所の村落保健委員（Village Health Committee; VHC）15 名（男性 9 人、女性 6 人）に対して、診療所や保健サービスの効率的かつ効果的な管理や維持管理に関する研修を実施しました。研修後、VHC は定期的に診療所を訪れ、診療所や保健サービス等に問題がないか確認を行っています。

#### **活動⑤ 母子保健・栄養研修**

本事業で母子保健・栄養に関するトレーナー育成研修を受けた村落保健普及員（Community Health Extension Worker; CHEW）が、学んだ知識を活かしてエランガタ・エンテリット地区の 20 人の村落保健員（CHV）に対してトレーニングを実施しました。今後、CHV がコミュニティや各世帯を訪問し、トレーニングで学んだ正しい知識と行動を広く普及していきます。

#### **活動⑦ Mother-to-Mother (M2M) グループの活動支援**

村落保健員（CHV）のサポートを受け、エランガタ・エンテリット地区で 20 名から成る Mother-to-Mother (M2M) グループを結成しました。M2M グループは、母子保健や栄養に関して知識や経験、心配事や悩みなどを共有し、お互いに学ぶ場となります（ピア教育）。さらにコミュニティ全体の母親が産前・産後健診などの保健サービスを受けられるように啓発もしていきます。また、M2M グループが栄養改善のための活動などを進めることができるように、収入創出活動を開始するための支援をする予定です。

エンクトト、モシロ地区においても、M2M グループの結成のためにそれぞれの地区の CHV が活動を始めています。



エランガタ・エンテリット M2M グループ

### 活動⑨ 栄養不良児支援

保健省と協働の上、子どもの栄養状態を確認し、栄養不良児に栄養補助食の支給を継続的に行っています。対象期間には、巡回診療時に 25 人の低体重児、5 人の低身長児、22 人の消耗症児が栄養不良と診断され、保健施設で栄養補助食の支援等を受けることができました。事業地で長く続く厳しい干ばつの影響で食糧不足が深刻になってきており、栄養不良児が増えている状況です。

### 3. 特記事項

干ばつが続き、住民は水を求めて移動をしているため、本事業地外に出てしまう住民も多くいます。また、食糧不足が深刻化し、子どもの栄養状態が悪化しています。ワールド・ビジョンのイラマタク地域開発プログラムでは、食糧不足の状況改善のため、主に子どもたちへの食糧支援も実施しています。

保健サービス向上のための医療スタッフの増員に関して、保健省へ継続的に働きかけを行っていますが、2016 年 12 月から 2017 年 2 月まで続いたケニア全体での医療従事者のストライキの影響で、進捗が見られていません。ストライキが終わり保健省も医療機関も平常状態に戻ったため、今後さらに保健省に強く働きかけ、医療スタッフの増員による保健サービス向上に向けて活動をしていきます。

また、エランガタ・エンテリット診療所への電気の接続についても、保健省と協力して進めたいため、ストライキ中は進めることができませんでした。また、ケニア全土でトランスフォーマーが不足している状況もありますが、本診療所に優先的に電気が開通するよう、保健省と協力してフォローアップしていきます。

電気と共に重要課題となっていたネットワークの接続については、ネットワーク接続のためのブースター設置の工事が開始しました（写真参照）。Safaricom<sup>2</sup>のネットワーク接続が可能になるのは 2017 年 8～9 月頃の見込みです。



ブースター設置の工場の現場

<sup>2</sup> ケニア最大の通信会社。モバイル通信サービスを提供し、ケニア国内で最も広い通信エリアを持つ。

※次回は、2年次の中間報告（2016年10月～2017年3月活動分）を2017年5月末に、2017年4月1日～2017年5月31日の期間の活動を2017年6月にご報告させていただきます。

**【連絡先】**

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F

TEL: 03-5334-5350 FAX: 03-5334-5359

担当：堀切、谷村（マーケティング第2部ドナーエンゲージメント課）